



# 路政縱橫

丹波浪人

△近頃の土木事業界は、時代の産んだ時局匡救と言ふ國策のお蔭で大繁盛を極めてゐる、積極主義を採つた政友會内閣時代に樹立された各種土木事業計畫の、其の支出年割額を繰上げるやら更に新規事業を追加するやら、昭和の年代は勿論のこと明治大正を通して見ても是れ位大きな土木事業費を支出

したことが無いと言はれてゐる、程に老大な政府豫算を編むたものだ、夫れで民政黨は勿論のこと政友會の臭味も何もかゝつてゐない内閣——所謂超然内閣であることが判つたと言ふ譯でもあるまいが、裏から見れば兩政黨の主張を容れた容れるでもない内閣だ。併し何れの内閣でも可い此調子で茲四

五年間土木事業費豫算が成立して呉れたらナ—とは、内務省土木局を中心とする役人連中の希望だ想だ、併し其の役人の事業慾を利用して選舉地盤の擴張をやるうと目論む代議士もなか〜如才がない。

△人間テ—奴は馬鹿なもので先きを見る眼が無いと笑ふ人もある、成る程大きな豫算が成立して道路や河川港灣の事業が完成してしまへば手前共は失業するのに、夫れを知らないで事業慾を満足せしめてゐるのだ、考へて見ると可い、河川の改修工事だつて漸次完成して中小河川の改良に手を出さなければならぬことゝ爲つた、國道の改良工事だつて茲五六年も此調子に繼續すれば其の全部が改良されてしまふ、港

灣だつて其の通りだ、代議士だつて地盤擴張に利用する餌を失ふ譯だが、矢張り人間は自己の生存年限を自覺してゐる勢で生存中のことを計畫すれば満足するの知ら。

△取越し苦勞はするものぢや無い、其の成行きを見越してゐる高橋藏相は、社會不安も少しは安定した、經濟界も少々景氣附いて來た、八年度の事業を執行すれば其の結果は益々好景を呈するであろう、だから九年度に時局匡救事業をやるかやらぬかは言明の限りでない、四百の五十男を前に置いて説教されてゐる、だから土木の役人が失業する恐がないことに爲る譯だ。

△社會主義者に言はしめたら、土木事業を起興したつて夫れに依つて利益

を受くる者は、役人と資本家ぢやと言ふが、一面の眞理があるにしても夫れかと言つて勞働階級者に政府が金を呉れてやる譯にも行かない、國民文化生活を維持する爲にはドーセ遣らなければならぬ仕事だから、此仕事をして勞銀を地方に蒔くと言ふのが此種事業の本旨だから、何等の時局匡救の對案を持たないで反對するのが能でない、是等の人々には。施政者の立場にあれの言葉を送つて時局匡救土木事業費豫算の成立を禮讃する。

△兎も角豫算成立の見込が確實になつた、そこで起つて來るのは府縣への割當額の問題だ、併し時局匡救の對象を何に置くかゞ問題と爲るのだが、今頃にそんな事柄を論議してゐるのも少

々馬鹿げた感がする、併し論議して來るとなかく六ヶ敷問題だ、七年度の延長事業だから七年度と同じ標準で可いと言ふ論もあれば、七年度とは經濟事情に變化を來してゐる府縣もあるのに夫れを構はないのは不都合だと言ふ議論もある、新標準を立て、配當するにしても七年度より減少する府縣があれば夫れは困ると言ふもある、甲論乙駁の結果、最低標準と最高標準とを決定して府縣配當額が定められた想だが、之を發表することは地方を紛糾せしむるので極秘に附してゐると言ふことだ。

△氣の早い、悪く言へば抜け目のない府縣は、割當額増額の運動に吏員を東上せしむるもあれば知事自ら出馬し

て陳情するもある、併し其の多くの府  
縣は前年度事業殊に産業振興土木事業  
進捗の程度が悪い府縣に限つてゐると  
言はれてゐる、臍に疵を持つから陳情  
などをせなければならぬのだろう、矢  
張り七年度事業を繰越したものは、そ  
のこと自身の善悪を論じないとしても  
八年度に仕事を持ち越すのだから理論  
的な配當額から繰越額を差引いて勘定  
するのが適當だ、此問題はまだ解決さ  
れてゐないと言はれてゐるから、内務  
省へ増額陳情に出頭するよりは、工事  
現場にでも出張して工事の進捗を督勵  
し、繰越額を減少することが府縣の爲  
に利益ぢやと言はれてゐる。

△府縣の陳情もなか／＼上手に爲つ  
たと言はれてゐる、壁一重で區別され

てゐる道路と河川の兩課で陳情するこ  
とが違つてゐる、僕の縣は一雨毎に河  
川が氾濫する、之を治めなければ産業  
の振興もあつたものではない、言はゞ  
河川國だ、河川費を多分に配當して呉  
れ、と陳情して足を道路課に向け、僕  
の縣は交通機關が不十分で道路を良く  
しなければ産業の開發も何もあつたも  
のでない、町村の何れもは河川工事の  
配當を嫌つて道路費の配當ばかりを要  
求するから道路費を多分に配當して呉  
れ、と言つた調子だ想だ、理論配當額  
が此手に乗せられないやうに妥當にし  
て公正なものたるを翹望する。

△七年度匡救事業費の配當に方つて  
問題と爲つた府縣事業費と町村事業費  
との流用問題、道路河川港灣費相互の

流用問題は、八年度豫算では何れも許  
容さるゝことゝ爲つた、町村事業費が  
足りないと言つた府縣は、府縣事業費  
を喰つても可い、道路費の配當が足ら  
ないと言つた地方は河川費を喰つても  
構はないことになつた、従つて工事が  
遅々として進捗しないものは夫れを廢  
工して異種の事業を起しても差支ない  
自由がある譯だ、だから地方の希望す  
る事業を隨所に起工して政府の所期す  
るところを實現することが肝要だ。

△事業の選擇が自由に爲つたこと  
は、事業本位を忘れても可いと言ふこ  
とには爲らぬ、一億四千萬圓からの大  
金を投し、而かも夫れが後世人の負擔  
に歸すべき赤字公債に依つてゐる以上  
は、何等か其の効果が後世に残さるべ

きものであるを要する、七年度農救事業でA縣の事業は非常に進捗してゐるが、B縣は夫れに反して其の成績が良くないと報導されたが、後に爲つてB縣は事業本位で工事を執行し、A縣は道路の砂利敷工事ばかりをやつてゐる爲に進捗歩合が良いのであると報告され、A、B兩縣の土木主任官の價値が判断されたやうに、眼先き鼻先きだけの計畫は罷めて貰ひたい、假令夫れが一時の人氣を博するにしても賛すべきではない。

へ農業土木事業だつて、地方の人氣は可い、内務省の計畫事業に就ては、事業の監督が嚴重で、やれ會計の整理が悪い、農民使役の方法やら賃金支拂方法が良くないと、干渉されて蒼蠅い

が、農林省の計畫事業は其の取扱が緩であつて干渉されないから樂だ、之が眞に農救の實を擧ぐると賞える者もある、夫れは人情の然らしむるところで干渉されない方が可いに違ひない、併し干渉のないところ地方の樂なところ、桑園を伐採しても之はいつかは還る、元する、斯様な事業に公債を財源とする國帑を支出することは排すべく獎勵すべきでない、セメテ我が土木事業だけでも此禍から免るゝことを得たならば國家の幸であろう。

▽救農土木事業の爲めに役人が殖えた、詰り之は役人救濟事業ぢやと、眞面目に攻撃する人もある、併し短期間に大きな土木工事を起して農山村生活

を安定せしめよ、と言ふ以上は、此事業に必要な役人を増加するのは當然である、夫れを難するのは手足を縛して働けと言ふのと同じことだ、社會上最も恐るべきものは智識階級の失業だ、之を何とか仕末しなければならぬ、とは六十三議會での要求であつた、今夫れに役人の増加を嗤ふ、いかに議會に於ける言論が自由であるにしても、矛盾した議論は識者間に容れらるべきでない、這般の事業で社會局が持て餘してゐた智識階級の失業群が救濟され、不穩の空氣が著しく緩和されたことに氣附くとき、吾等は役人救濟事業と言はれても救農事業計畫を賞える。